

ネットストーカーについて

SNSなどのインターネットサービスの普及に伴い、ネットストーカーによる被害が増えています。ネットストーカーとは、インターネットを利用してさまざまな嫌がらせ行為を行う人たちのことで、そうした行為がエスカレートして、事件にまで発展してしまうことも。子どもたちが被害を受けてしまうケースもあり、見逃せない問題となっています。

ネットストーカーによる被害の例

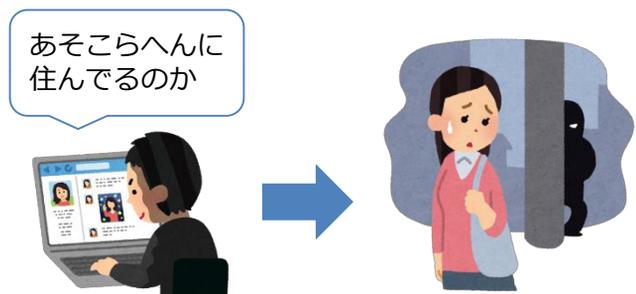
では、ネットストーカーによる被害にはどのようなものがあるのでしょうか。

その内容はさまざまです。例えば、SNSやブログに好意を寄せるコメントなどがしつこく送られてきたり、日頃よく利用している掲示板などに誹謗中傷の書き込みをされたり……また、SNSなどの投稿から住所や通学路を特定され、実際に会いに来られたりすることもあります。

しつこくメッセージが送られてくる



個人情報を特定され、会いに来られることも



ネットストーカーの特徴について

ネットストーカーは従来のストーカーとは違い、被害者が顔も名前も知らないような人物であることが多いといわれています。たまたまSNSなどの投稿を見かけた人や、インターネット上のサービスで知り合った人が、ネットストーカーになることがあるということです。

SNSなどのインターネット上のサービスでは、日常生活では言えないような個人的なことをつい書きこんでしまいがちです。また、顔も名前も知らない、インターネット上だけの知り合いだからこそ、本音を言いやすいという側面もあります。そのため、SNSなどの投稿を毎日のようにチェックしたり、インターネット上でのやりとりを何度か繰り返したりするうちに、相手に好意を抱いたり、相手と親しくなったような錯覚に陥ったりする人も、中にはいるのです。

そうした人物は相手から拒絶されると裏切られたと感じ、相手を脅迫したり、実際に会いに行つて危害を加えようとしたりすることもあります。

ネットストーカーによる被害は、インターネットを利用している人であれば誰でも受ける可能性があるものです。子どもたちにはそのことを正しく理解させ、インターネット上で自分や友だちの情報(名前や顔写真などの個人情報や、自宅・通学路・外出先が特定されるような情報など)を絶対に出さないよう、学校全体で指導していくことが必要です。

また、もしネットストーカーの被害にあった場合は、相手を拒否するようなメッセージを送るのではなく、すぐに保護者や学校の先生に相談するよう注意を呼びかけておくことも大切です。(警察等に相談することも考えて、証拠として、その書き込みを印刷するなどして残しておきましょう。)